

Richart ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第121号

ななえ古写真物語

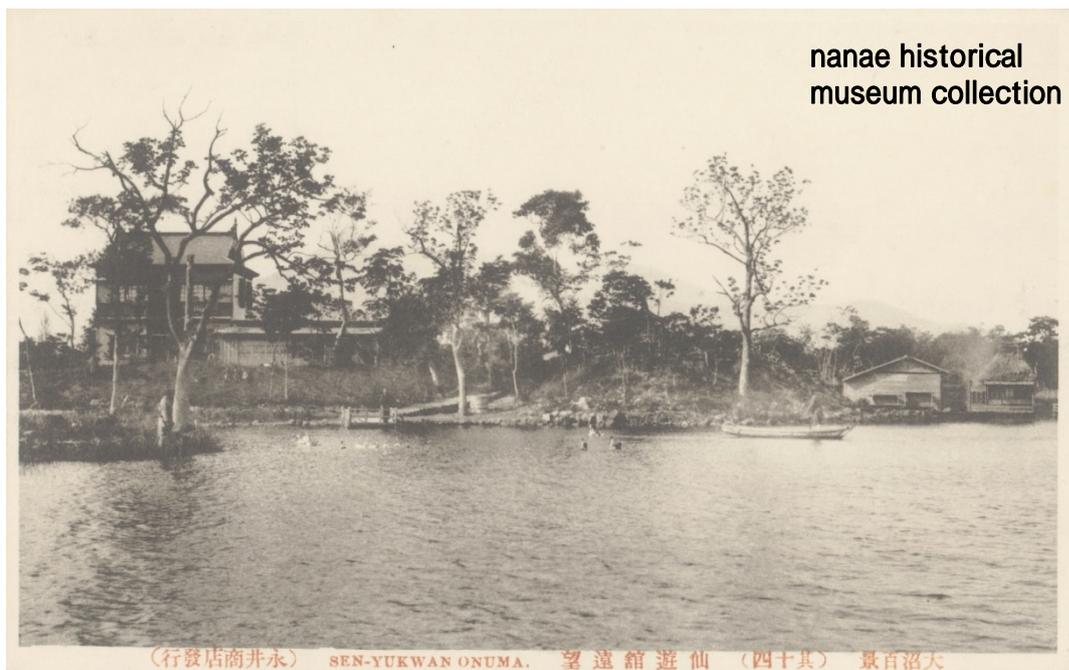
VOL. 121

歴史を探る

仙遊館 丸五別荘

明治終わり～大正初期か

大沼公園



「昨日の大沼 仙遊館落成 渡船場より至る館又大廈層楼ならずとするも仙趣味を帯びて、人々の人心を奪うの感」この記事は、明治36年8月22日付けの『函館公論』という新聞に掲載されたものである。

現在の大沼公園周辺の発展は、明治36年の函樽鉄道の敷設によるところが大きい。それを見込んでか、この時期の大沼では、商店や旅館、休憩所を開業する人が増え、紅葉館・大成館・ひさご屋・亀の湯・鳳の湯・敷島館といった建物が建てられた。本格的な観光地開発の始まりといえるだろう。

しかし、その歴史をまとめた史料は少なく、いつ・誰が・どこに・何を建てたかなど、実態がわからない店が多い。「仙遊館」もその一つで、当時の絵葉書に写された古写真から、その建物の姿は知っていたのだが、場所や歴史については、これまで調べていなかった。冒頭に紹介した新聞記事から、明治36年に開業したことがわかる。同新聞の翌日の記事には「仙遊館に於ける園遊会 離れ島に新築中なりし山本氏の仙遊館 いつか船は大沼中での勝地と誇る紅葉館前に着きぬ」とあり、山本巳之助という人物によって建てられたものだと思った。

このように、新聞記事により歴史の一端を知りえるのだが、果たして仙遊館が、旅館なのか宿泊を伴わない休憩所なのか、個人別荘なのかは、今の段階ではわかっていない。

場所については、明治36年発行の「大沼明細圖」で、大沼公園駅の裏側にあったことは、わかったのだが、半島のように突き出た陸部の正確な場所までは特定できなかった。

しかし、当館所蔵史料の中、大正10年発行の鳥瞰図「北海道公園大沼全景」に手がかりを見つけた。写真左側の特徴的な2階建ての建物と、はなれた右側に2軒ある建物と考えられる絵が、現在の大沼鶴賀オーベルジュ・エプイというホテルの位置よりも、さらに小沼側に入り込んだ陸部の南側面に描かれていたのだ。そしてそのことは、少なくとも大正10年までは、この建物が存在していたことも示している。さらなる調査で、館主の山本巳之助が大正4年に亡くなったことがわかったが、いつ頃まで営業をしていたのかなど、調べがつかない。

古くから観光地として開発が進められた大沼では、仙遊館のように、記録が少ない建物が多い。そういった歴史を伝えるのも、この紙面の役割なのだと思う。

2月の予定

6日 夜の博物館後期講座第1夜のテーマは「アートな遺物」。冒頭に、岡本太郎が火焰土器と対峙したときの話をしながら、受講者の皆さんにもどんなイメージをもつか、感想をお聞きしました。もし貰ったら何に使いますか?の問いには「花器」「保存するための物」「そもそも貰っても困る」などの答えが。後半、土器のモチーフを紙に描くことをお願いしたところ、充填された土器の紋様デザインは、十人十色。想像をし、形にし、実用へ。時を経て、尚感じる日本人の器用さを感じる夜となりました。



14日 東大沼小学校の1、2年生と6年生が来館しました。1、2年生は自由見学、6年生は、地域の歴史の学習を更に深めるため、所蔵古写真などを用い、学びました。家族や地域の人から聞いた昔の話と資料が結びつき、理解が増した様子。印象深かったのは、スバルパークの標本を見たときの一言、「1日見ても飽きない!」。興味が広がるきっかけに歴史館ができること。来館した子供たちからヒントを貰うことが次へと繋がっていきます。



23日 ジュニア探検クラブは、「そば打ちともちつき」に挑戦しました。美味しく頂くには、熟練した技が必要。友の会の皆さんの手の動きに注目しながら、そば打ちを開始、天気によって水の量が変わることや、手の平を上手く使い、捏ねることも教わり、出来上がったそばをおいしく食べることができました。もちつきは、杵の重さに格闘した様子でしたが、突き立てのおもちの味は格別、試食をし、粉まみれの子供たちに友の会の方から、「道具が揃わなくても、工夫をして有るものを使う」という大切なことを学びました。

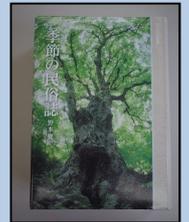


1	木	企画展「あそび」開催中
2	金	
3	土	
4	日	
5	月	
6	火	
7	水	夜の博物館
8	木	
9	金	
10	土	
11	日	建国記念の日
12	月	振替休日
13	火	
14	水	
15	木	
16	金	
17	土	
18	日	
19	月	
20	火	
21	水	
22	木	
23	金	
24	土	ジュニア探検クラブ
25	日	
26	月	
27	火	
28	水	

2月の休館日はありません。

多雪兆象

全国にある多雪予測。朴(ほお)の葉が裏返しに落ちると次の冬は雪が多いという、岐阜県、新潟県などで伝わる兆象は、去年の秋に七飯町内でも目にしました。学習室にある本で更に詳しく知ることができます。



編集後記 ~tawagoto~

年明け早々、驚くほどの積雪に見舞われた。後から知ったのだが、今シーズンの冬は、既に例年の3倍もの雪が降ったそうだ。圧雪で路面がガタガタになった国道5号の姿を見るのも、久しくなかったという人もいる。そして、雨がふった。よくわからない冬である。そんな成年の始まりだが、この歳になると、喜んで庭を駆け回ることなく、ただただ、雪かきで疲れた足腰をいたわっている。以上、本年もよろしく願いいたします。(やまだひさし)

~ピチャリ~
Richard 第121号

平成30年1月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp